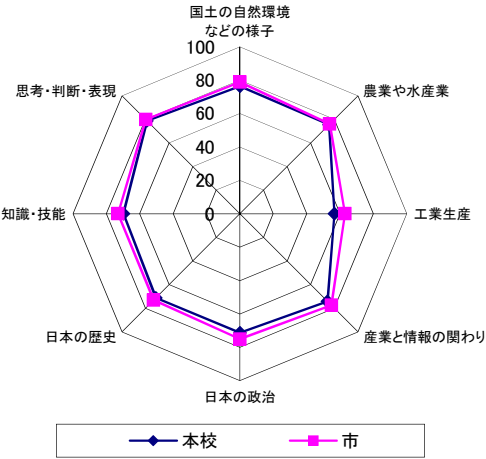


宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	76.3	78.9	75.4
	農業や水産業	75.6	76.1	71.2
	工業生産	56.7	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	74.2	77.6	59.7
	日本の政治	71.3	75.0	79.3
	日本の歴史	71.3	73.1	72.8
観点別	知識・技能	69.8	73.0	71.4
	思考・判断・表現	78.8	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取る問題の正答率が、市の正答率を上回っている。 ○津波から生活を守る取り組みについての正答率が高い。 被災地からの距離の近さが関心を高めていると考えられる。 ●周辺海洋名と諸外国の位置、林業に関する問題の正答率が低い。身近な職業ではない林業に対する理解が低かったと考えられる。	・周辺海洋名と諸外国の位置については、地球儀や地図帳などを活用して知識の定着を図る。 ・身近な職業としてとらえることが難しい林業に対して、デジタル教材や図書資料などを用いて理解を深められるようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○農業や水産業に関する資料の読み取りの正答率は、市の平均と同程度である。 ●都道府県の位置の理解と、白地図にまとめる問題の正答率が低い。白地図にまとめる活動や、都道府県の復習を折に触れて行う必要があると考えられる。	・白地図にまとめる活動やAIDリルの活用等、都道府県の復習を折に触れて行うようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●日本の工業生産についての正答率は低い。特に大工場と中小工場の特徴についての問題の正答率が低い。それぞれの特徴を踏まえて、イメージができるように図表や動画資料なども活用していくことが考えられる。	・それぞれの特徴を踏まえて、イメージができるように図表や動画資料なども活用していく。 ・自分の言葉で説明文を書かせたり、まとめさせたりして、理解を深める機会を意図的に設ける。
産業と情報の関わり	平均正答率は、市の平均を若干下回っている。 ●情報の活用に関して、複数の資料と、知識を関連させて記述する問題の正答率が低い。知識と資料を関連させて、自分の言葉でまとめる活動を取り入れる必要があると考えられる。	・知識と資料を関連させて、自分の言葉でまとめる活動を意図的に授業に取り入れる。
日本の政治	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○裁判の仕組みについての問題の正答率が高い。非核3原則に関する問題の正答率も高い。 ●日本国憲法の3つの原則の問題や国会の仕組みについての正答率が低い。実際の生活と結び付けて、正しく理解することができていない。機会をとらえて、学習内容と社会的事象を関連させ、具体的な場面を通して学ぶことができるようにする必要があると考えられる。	・機会をとらえて、学習内容と社会的事象を関連させ、具体的な場面を通して学べるよう工夫をする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を若干下回っている。 ○室町・安土桃山時代に関する問題の正答率が高い。 ●飛鳥時代や大名配置に関する問題の正答率が低い。単に単語を記憶するのではなく、時代の特徴を自分の言葉で説明する力が低いと考えられる。	・新聞づくりなどを通して、時代の特徴や人物について自分の言葉でまとめさせる。 ・大まかな時代の流れを映像教材を用いながら確認させる。 ・教科書や資料集に出てくる資料を活用させる。